

は し が き

この実践研究集録は、昭和59年度と60年度の2年間にわたる「高等学校理科定期研修」の成果をまとめたものです。

「定期研修」は、当教育センターが実施している研修事業の一環であり、研修員と所員とが一体となって行う共同研究の形態をとっています。眼目は「理科教育の実践的課題」を主題とし、授業研究を通して指導内容、教材、単元構成などの問題点を究明していこうというものであります。

今回の理科定期研修は、化学分野から5名の先生方の参加を得、所員1名を加えた計6名で実践研究を進めましたが、「理科教育の実践的課題」を「生き生きとした身につく理科は、いかなる手立てによって成立するのか」ととらえ、その方策を化学分野に焦点を絞って探ろうとしたものです。

研究の内容としては、①授業の問題点と解決の方向を、生徒だけではなく教師の側からも実態調査を行って明らかにしていること、②化学カイロというユニークな教材を多角的に吟味し、教材のもつ可能性と重要性を明らかにしていること、③多様な生徒の実態に応じて、様々な単元構成の工夫を行い、単元構成の在り方を探っていること、の3点に大きな特徴があります。

いろいろな制約条件により、その意とすところを十分尽し得ないものも多く、また、内容について至らない点多々あると思いますが、率直な御批判と御指導をいただければ幸いです。

終わりに、多忙な業務の中、この研修に参加し終始熱心に研さんされた研修員の方々の努力と熱意に対して深く敬意を表します。また、研修員所属校の校長先生はじめ、実態調査に御協力をいただいた各校の諸先生方に対し、心から御礼申し上げます。

昭和61年1月16日

新潟県立教育センター所長 星 智 信